

《平成31年度（令和元年度） 埼玉県学力・学習状況調査 結果について》

①実施日 平成31年4月11日（木）

②実施学年 4～6年 個人の伸びを追跡し、児童一人一人の学力を確実に伸ばしていくことがこの調査の大きな目的です。中学入学後も3年間継続して行われます。

③実施教科 国語・算数

④調査の結果については下記のとおり（％は平均正答率を表しています）

学年	4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
埼玉県	56.1%	70.2%	52.3%	68.2%	62.2%	61.5%
狭山市	55.8%	71.1%	50.3%	66.5%	60.4%	60.8%
本校	58.3%	72.4%	51.3%	66.1%	61.7%	62.2%
県平均との差（31）	+2.2%	+2.2%	-1.0%	-2.1%	-0.5%	+0.7%
県平均との差（30）	—	—	-0.1%	+0.5%	-2.6%	-3.1%
1年間の変化	—	—	-0.9% ↓	-2.6% ↓	+2.1% ↑	+3.8% ↑
学力のレベル	1～12の段階に分け、それぞれのレベルを更にA、B、Cに3分割して表す。 最上層は12-A。小4は1～7、小5は2～8、小6は3～9の範囲の中で表される。					
31年度（県）	5-A	5-B	6-B	6-B	7-B	6-A
31年度（本校）	6-C	6-C	6-C	6-B	7-B	7-C
30年度（本校）	—	—	6-C	5-B	6-B	5-A
1年間の伸び	—	—	0	3	3	4

本校の今年度の学力のレベルは、昨年度と比較して、概ね3～4段階の伸びが見られ、そのレベルは県の学力レベルとほぼ同等かそれ以上になっています。（5年生の国語については1年間の伸びが0）

昨年度もそうでしたが、どの学年も自分の考えをまとめたり、問題の意に沿って書いたりする記述力が低く、課題となっています。学校では、まとめやふりかえりを自分の言葉で書くことを通して、記述力の向上を図っています。家庭でも、学習の時間をしっかりと確保するなど家庭学習の習慣化を図り、日々の学習の確実な定着と発展的な内容への取組をすることが大切です。

《平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査 結果について》

①実施日 平成31年4月18日（木） ②実施学年 6年 ③実施教科 国語・算数

④調査の結果については下記のとおり（％は平均正答率を表しています）

教科	国語	算数
全国（公立学校）	63.8%	66.6%
埼玉県	64.0%	66.0%
狭山市	59.0%	64.0%
本校	59.0%	64.0%
全国平均との差	-4.8%	-2.6%

全国平均と比べ、国語、算数ともに課題が多く見られました。県学力調査と同様に記述力に課題がある点。また、無回答の児童がやや多く見られた点、最後まで問題に取り組めていない児童が多かった点が正答率の差を生んでいると考えられます。一方で、質問紙調査より、本校は、全国学力1位の秋田県や石川県よりも家庭での就寝時間、起床時間がしっかりと定まっている家庭が多いということがわかりました。家庭での生活習慣の良いところをそのままに、家庭学習の習慣化を図っていくことが学力向上につながります。本校でも、児童の一層の成長が図れるように、また、主体的で深い学びにつながるように授業に取り組んでいきます。

今後も家庭と学校で手を取り合いながら、児童の成長を支えていきましょう。